

令和6年度 広島文化賞受賞者

個人の部（美術—彫刻）



伊 東 敏 光 氏
広 島 市

1994年に創設した広島市立大学芸術学部の教員として、大学の立ち上げから尽力した。旧広島大学学校教育学部図書館、旧宇品陸軍糧秣支廠倉庫、サントリー宮島工場を活用した「都市の成熟と芸術の役割—歴史的建造物と芸術の共振展」を企画、作品展示するなど、彫刻と歴史的建造物、都市のあり方を繋げる新しい文化的試みを進めた。

県内外で地域密着型のアートプロジェクトを数多く手がけるとともに、アートディレクターとして若い芸術家の後進育成にも努めた。国内外での美術展に参加し、精力的に作家活動を続ける一方、様々な広島美術展で審査員を務めたり、児童や一般の方を対象にしたワークショップを開催するなど、広島における芸術文化の裾野を広げる取組みを牽引している。

個人の部（美術—写真）



藤 岡 亜 弥 氏
東 広 島 市

文化庁「新進芸術家海外派遣制度奨学生」としてニューヨークに滞在後、広島県内で活動を始め、地域おこし協力隊員として赴任した東広島市で活動を続けている。

ヒロシマをテーマとした連作で女性では初となる伊奈信男賞を、また三大大写真賞である林忠彦賞、木村伊兵衛賞を受賞し、東京のほか海外でも多くの個展を開催している。

東広島市では、地域住民と協力し、ダムで水没した村の記憶をたどる冊子づくりなど、民俗学的な分野にも挑んでいるほか、西条酒蔵通りを巡り、撮影した写真を展示するワークショップの講師なども務めている。

広島文化賞 贈呈の状況

回	開催年月日	贈呈数		回	開催年月日	贈呈数		回	開催年月日	贈呈数	
		個人	団体			個人	団体			個人	団体
第1回	昭和55年10月21日	11	4	第19回	平成10年10月28日	2	1	第37回	平成28年11月24日	1	1
第2回	昭和56年10月21日	8	4	第20回	平成11年10月13日	2	—	第38回	平成29年11月30日	2	—
第3回	昭和57年10月14日	5	6	第21回	平成12年10月25日	2	1	第39回	平成30年11月 6日	1	1
第4回	昭和58年10月20日	7	6	第22回	平成13年10月18日	2	1	第40回	令和元年11月 8日	—	—
第5回	昭和59年11月6日	6	6	第23回	平成14年10月24日	2	1	第41回	令和2年12月 4日	1	1
第6回	昭和60年11月13日	5	5	第24回	平成15年11月21日	2	1	第42回	令和3年12月 6日	1	—
第7回	昭和61年12月3日	5	5	第25回	平成16年11月16日	2	1	第43回	令和4年12月 2日	1	1
第8回	昭和62年11月2日	3	4	第26回	平成17年12月3日	2	1	第44回	令和5年12月20日	—	1
第9回	昭和63年11月29日	4	4	第27回	平成18年11月28日	2	1	第45回	令和6年12月11日	2	—
第10回	平成元年11月20日	4	3	第28回	平成19年11月26日	2	1				
第11回	平成2年11月14日	3	6	第29回	平成20年11月18日	2	1				
第12回	平成3年10月25日	6	6	第30回	平成21年11月26日	2	1				
第13回	平成4年10月27日	4	2	第31回	平成22年11月22日	2	1				
第14回	平成5年10月22日	3	3	第32回	平成23年11月14日	2	—				
第15回	平成6年10月8日	3	3	第33回	平成24年11月19日	1	1				
第16回	平成7年10月15日	2	1	第34回	平成25年11月25日	—	1				
第17回	平成8年10月19日	2	1	第35回	平成26年11月26日	2	1				
第18回	平成9年10月15日	2	1	第36回	平成27年11月16日	2	1	合計	個人125	団体91	



令和6年度 ひろしま文化功労者表彰受賞者

個人の部（音楽—邦楽）



佐竹 定山 氏
福山市

1954（昭和29）年に都山流尺八渡辺仲山に師事し、1967（昭和42）年都山流尺八師範となる。

1974（昭和49）年、勤務先である日本鋼管に尺八部を設立したほか、地域における研修会など後進の指導を継続的に行い、尺八の普及発展に努め、1992（平成4）年に都山流竹琳軒の称号を受け、広島県を代表する尺八の演奏家となる。

福山地域における邦楽演奏会など代表的な行事に多数出演する傍ら、福山文化連盟などの様々な役職を引き受け、地域文化発展のために尽力し、現在まで福山地域の邦楽界をリードしている。

ひろしま文化功労者表彰 贈呈の状況

年度	回	開催年月日	個人	団体	
平成25年度	第1回	平成25年11月25日	—		
平成26年度	第2回	平成26年11月26日	—		
平成27年度	第3回	平成27年11月16日	3		
平成28年度	第4回	平成28年11月24日	1		
平成29年度	第5回	平成29年11月30日	1		
平成30年度	第6回	平成30年11月6日	2		
令和元年度	第7回	令和元年11月8日	2		
令和2年度	第8回	令和2年12月4日	1		
令和3年度	第9回	令和3年12月6日	1		
令和4年度	第10回	令和4年12月2日	2		—
令和5年度	第11回	令和5年12月20日	1		—
令和6年度	第12回	令和6年12月11日	1	—	
合計			15	0	

※令和4年度から団体の部を創設



令和6年度 広島文化新人賞受賞者

個人の部(美術—日本画)



かめ かわ か の 氏
亀 川 果 野 氏
広 島 市

広島市在住、28歳。広島市立大学大学院博士後期課程芸術学研究科総合造形芸術専攻日本画研究在籍。美術家。広島市現代美術館広報臨時職員も務める。

言葉と絵画の関係性を考察し、絵画内にドローイング的に文字を書き入れることによって起こる視覚的作用を利用した作品を制作しており、日本画の材料やテクスチャーから、感触や言葉を切り口に日常につながるような表現を目指し、新たな日本画領域に挑戦している。

「広島市立大学芸術学部卒業修了作品展」作品優秀賞をはじめ、2023年には「WATOWA ART AWARD」で準グランプリ、各審査員賞を受賞。

個展やアートプロジェクトに継続的に参加し、地元広島をはじめ東京など全国で精力的に活動中。

個人の部(音楽—宗教音楽)



さ さ き ゆう 氏
佐 々 木 悠 氏
広 島 市

広島市在住、41歳。エリザベト音楽大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。現在、エリザベト音楽大学准教授。

国際グレゴリオ聖歌学会日本支部（日本グレゴリオ聖歌学会）理事・事務局長及び大会実行委員長を務める。

国内外の学会でグレゴリオ聖歌に関する学術成果を定期的に発表し、オルガン・チェンバロの演奏者、グレゴリオ聖歌の指揮者としても国内外で活動。

西洋音楽研究の中で根源的な分野でありながら、日本のメディアで取り上げられることの多くない一方、世界的な評価を得て注目を浴びている数少ない若手日本音楽学者である。

東広島市立美術館におけるレクチャーコンサートや世界の子どものためのチャリティーコンサートの開催など、地域貢献にも継続的に携わっている。

個人の部(美術—デザイン)



さとうもぐも 氏
広島市

広島市在住、30歳。比治山大学短期大学部美術科映像・アニメーションコース卒業。現在、フリーのデザイナー、イラストレーター、漫画家として制作活動している。

柔らかいタッチのデザインや似顔絵を得意とし、「お客様に楽しんでいただくこと」をモットーに、町おこしやファミリー向けイベントのデザインを多く手がけ、イラストやデザインで大人から子どもまで楽しめる「やさしいスポーツ」の世界を目指す。

横川駅からエディオンピースウィング広島や広島ドラゴンフライズの応援へ行く道を「横川ビクトリーロード」と称して、ポスターや横断幕のデザインを制作するほか、東京ヤクルトスワローズとのコラボ漫画も制作し、広島から全国にスポーツの楽しさを発信。

また「性被害ワンストップセンターひろしま」のステッカーデザイン、熊野町公用車ラッピングイラストや広島「食」の観光キャンペーンキャラクターデザインなど広島県内のプロジェクトに積極的に携わる。

個展「ひろしまもぐもぐ展」を広島市・東広島市で定期的開催中。

個人の部(美術—工芸)



なか ぞ とも こ 氏
中 曾 智 子
尾 道 市

尾道市在住、42歳。美術家。尾道市立大学芸術文化学部美術学科デザインコース卒業、多治見市陶磁器意匠研究所技術コース修了。現在、尾道市立大学芸術文化学部美術学科非常勤講師を務める。

食と住まいの空間演出をテーマに、従来のとびかな技法（削り道具の刃先を轆轤（ろくろ）で回転させた作品の表面に当て、表面に連続した削り模様をつける技法）を独自アレンジし、伝統的な装飾技法でありつつ現在の生活に取り入れやすい作品を制作。

広島の陶芸家集団「タナゴコロ」に所属し、飲食店と共同して、食の新しい提案のプロジェクトにも参加。また、地域の祭りの舞台製作協力や地元企業との茶器開発・制作にも携わり、地域の文化芸術の発展に寄与。

大学教員として、尾道空き家再生プロジェクトの物件を自宅兼工房として改修し、授業教材として提供することで後進育成にも貢献している。

広島文化新人賞 贈呈の状況

回	開催年月日	贈呈数	
		個人	団体
第1回	令和 2年12月 4日	3	—
第2回	令和 3年12月 6日	3	—
第3回	令和 4年12月 2日	4	—
第4回	令和 5年12月20日	6	—
第5回	令和 6年12月11日	4	—
合計		20	0



公益財団法人ひろしま文化振興財団